

復興景観・津波浸水シミュレーションを用いた減災空間づくりのための合意形成支援技術

住民自らが地域復興計画を作成しようとする地区において、計画案への住民理解を促進し、合意形成を支援する技術

技術の概要

- ・津波により、農地等の農村空間に甚大な被害を受けた沿岸域の被災地においては、地域復興計画の作成が急がれる。
- ・住民自らが地域復興計画を作成しようとしている地区において、コーディネーターが住民に寄り添って復興計画づくりを支援する。
- ・事例地区では、住民自ら、巨大津波における越流を覚悟し、復興農地を津波減災空間として整備する農地復興計画(案)を作成した。
- ・寄り添いの中で、必要に応じた復興景観・津波浸水シミュレーションの技術的支援の実施が、計画案に対する住民理解を促進する。

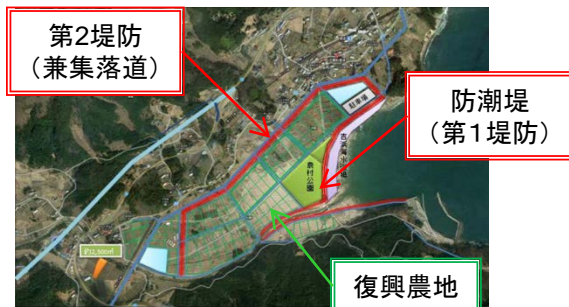
コーディネーターの役割

- ①住民の経験則・将来に対する考え方を整理して住民に提示する。
- ②減災対策・地域活性化方策等、様々な課題に対する相談役となる。
- ③住民による復興計画策定過程に応じた支援技術を投入する。
- ④計画案の策定、事業への流れを見守る。

事例地区で住民自らが作成した農地復興計画(案)

- ・津波減災 防潮堤(第1堤防)は高くせず、**巨大津波では越流を覚悟する**が、第2堤防(兼集落道)を高台住宅群と低地部農地の間に設置し、住居への津波到達を防ぐ。
- ・**第2堤防(兼集落道)** 非常時に大型トラックが国道からアクセスでき、集落を通過できる幅員とする。平常時には観光バスが海岸まで行けるようにし、**観光、6次産業化による地域活性化**をはかる。

- ・**復興農地の機能** 低地部の農地は、団地間に段差を設けて津波減勢機能を農地に持たせるとともに、従来より大区画に整備して、**農地として有効に利用・管理することにより、低地部の住宅建設を抑止する。**



○農地を用いた津波減災空間のイメージ

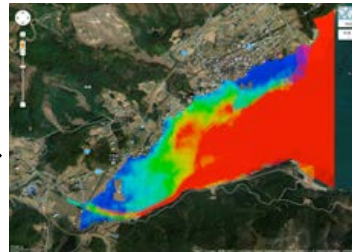
技術的支援

復興景観シミュレーション

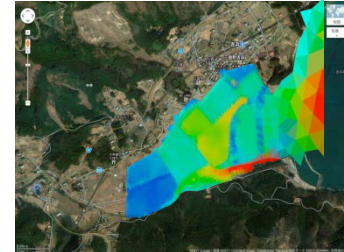


- ・低地部のどこからでも避難できるように第2堤防を階段化する案について景観をシミュレート(写真左)。
- ・神社参道跡に、祭事の際、浜にまっすぐ降りられる道を再整備する案について景観をシミュレート(写真右)。

津波浸水シミュレーション



< 現況での浸水範囲 >



< 整備後の浸水範囲 >

- ・今回と同等の津波襲来による浸水範囲・浸水深を比較。
- ・復興計画案の津波減災効果に対する**科学的根拠**となる。

地域復興計画案への住民理解を促進